民主香川

定価　月100円
発行所
民主香川社
高松市藤塚町
3丁目13－14
☎(087)834-7311

日本共産党四国比例、小選挙区各候補者が第一声

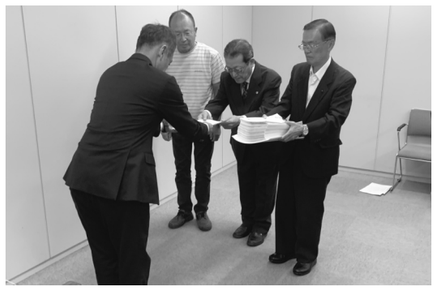
日本共産党の白川よう子衆院四国比例、たなべ健一衆院香川1区、石田まゆ同2区、ささい孝志同3区の各候補は、衆議院選公示の15日、香川県下3カ所で第一声の演説をし、その後、宣伝カーで街頭演説にまわりました。今号では第一声の様子を写真でお伝えします。

高松港軍港化撤回を！県に署名提出と要望
「郷土かがわを戦場にするな！」県民連絡会

平時から自衛隊が使用できる特定利用港湾に高松港が指定されたことに対し、「郷土かがわを戦場にするな！」県民連絡会は7日、池田豊人香川県知事宛てに特定利用港湾の指定受け入れの撤回を求める署名（オンライン署名含め5221筆）を提出しました。署名は7月15日から集めました。

共同代表の日本共産党樫昭二香川県議は、日米共同統合演習「キーンソード25」があることにふれ、「米軍が自衛隊と高松港を利用した場合、有事には攻撃目標となり市民に大規模な被害が出る。今回の演習では高松港は選ばれなかったが今後、米軍が高松港に来ない保障がない」と指摘しました。

共同代表の多田等香川商工団体連合会会長は「平和でこそ商売繁盛。戦争がいったん起こると国民の生命、財産を守ることができなくなる」と指定の撤回を求めました。



太鼓台

被団協（日本原水爆被害者団体協議会本部・東京都港区）へノーベル平和賞が授与された。

世界に高まる様々な危機。それを解決・突破する方策の一つに「戦争」を使う。戦争するぞと脅すだけではなくパレスチナでは国連の独立調査委員会が発表した報告書で「医療従事者や医療機関に容赦なく意図的な攻撃をし続けるイスラエル軍の行為は戦争犯罪・特定の集団を絶滅させる人道に対する罪に当たる」と非難している。調査委員会を率いる元国連高等弁務官は声明で「イスラエルは医療機関に対する無謀な破壊行為を直ちに停止しなければならない」と訴えている。

核廃絶を訴え続け、被爆の証言を世界に広げる被団協のたたかいの68年があらためて人々の心を揺さぶっている。日本の反核平和運動の中心、私たちを励まし続ける、その存在に大きな拍手を送ろう。（は）

白川氏　善通寺で集い

【3面から】旧ソ連や中国』などインターネットでの誤ったイメージや情報に惑わされないように『共産主義と自由』はぜひみんなに読んでもらいたい」などの感想がよせられました。

同日、白川氏は笹井たかし衆院香川3区候補と丸亀市の後援会の集いにも参加し、駅頭で街頭演説をしました。

日本共産党の白川よう子衆院四国比例候補とささい孝志衆院香川3区候補は、9月29日衆院四国比例の議席奪還をと、同日に結成の善通寺市後援会の「希望を語り合う集い」に参加しました。

白川氏は、善通寺の診療所に勤務していたことにふれ「自分を育ててくれた原点だ」と紹介。「この自民党政治を大本から変えるため日本共産党を大きくのばしてほしい」と強調しました。

内田信吾善通寺市議は、「高松港の特定利用港湾指定で、出撃基地になれば善通寺が戦争に巻き込まれる危険性がより増える」と報告しました。

会場から、「共産党はなんで伸びないのか」「マイナ保険証の強制はやめて」などの声がだされ、白川候補たちは丁寧に応えました。

参加者は「総選挙で必ず勝利しよう」と決意を固めました。

讃岐の文学碑めぐり ㉑
空海の師・岡田牛飼い（うしかい）が登場する
司馬遼太郎『空海の風景』
文・写真　深沢　雨根

空海は十三歳のとき、讃岐国府（坂出市府中）にあった国学（定員三十人）に入学した。国学というのは、地方官吏の養成所だが、空海はそこを二年でやめ、中央の高級官僚になるために十八歳で都の大学寮に入った。空海は一族の身分上昇の期待を一身に背負っていた。空海の担当教授になったのは、岡田牛飼という博士であった。司馬遼太郎の歴史小説『空海の風景』（1975）の中では、次のように叙述されている。

空海にとってきわめて偶然なことにこの博士は讃岐の人であった。生地は讃岐国寒川郡岡田村で、現今では岡田という地名はない。しかし推測するに高松市の東方の志度町の一部になるようである。（『司馬遼太郎全集第39巻』38頁上）

『続日本記』によれば、延暦十年（791）、牛飼いは朝廷に対し「いま住んでいるところは寒川郡の岡田村であるので土地の名をとって二十戸の者に岡田の姓をいただきたい」と言上し、許可を賜ったとある。同時に、牛飼いは大学博士に任じられている。

岡田牛飼いは、さぬき市志度町末出身の学者であり、空海が入学したとき大学頭に任じられていた。空海は岡田博士から明教道や春秋左氏伝を学んだと言われる。その岡田牛飼を祭神とする岡田神社がある。

志度インターのすぐ東側に志度末工業団地があり、その高速道路沿いに岡田神社がひっそりとある。このあたりは奈良・平安時代のむかし、寒川郡岡田という村であったが、今では末という地名になっている。当時、須恵器の生産地であったので、いつの間にか「末」という地名になったものと思われる。末地区には岡田博士の生家跡の石碑も建立されている。

都の大学寮に入学してきた空海を、岡田博士は同郷のよしみで見つめ、あたたかく激励したに違いない。ところが、空海は入学したその年か、その翌年に退学してしまう。大学寮で学ぶ儒教は、処世の術としか思えなかったのである。空海にとっては、この世の出世や名声よりも真理の探究や人類の救済がより重要であった。もちろん、教師や親族は退学に猛反対したが、空海は乞食のなりをして、四国へ苦行の旅に出たのである。

岡田牛飼の生家跡の石碑

岡田神社（志度町末）